



中才浄水場

たのは、昭和31(1956)年に世界で初めて実用化された自溶製錬法などを応用した脱硫技術の導入によりです。この製錬技術は、足尾銅山から世界各国に伝わり、現在も多くの製錬所で活用されています。

煙害により荒廃した土地への植樹も、国・県・企業のみならず多くのボランティアの方々の協力で進められています。

足尾銅山の産業遺産群の価値は、日本を世界有数の産銅国へと発展させた銅鉱山の一連の産銅システムが、まともって遺存するというだけではなく、公害問題解決のために努力を重ね、これからの人類が何をなすべきかを示しているところにあります。

足尾銅山の価値証明

市は、足尾銅山の歴史的価値証明を図るため、大学教授や研究者の協力を得て、足尾銅山に関する史料や鉱山施設などの調査研究事業を行っています。また、それを基に調査報告書の発行やシンポジウム、産業遺産見学会を開催しています。

◆調査報告書

今年3月に「足尾銅山跡調査報告書4」を発行し、環境に配慮した施設に変更されるまでの足尾銅山本山製錬所の変遷や、欧米における産業遺産の活用、内国勸業博覧会史料に



ボランティア植樹



産業遺産見学会

見る足尾銅山の3編を掲載しました。この報告書は、市内の図書館と歴史民俗資料館で閲覧することが出来ます。また、専用ホームページ「足尾銅山の世界遺産をめざして」(<http://www.nikko-ashio.jp/>)にも掲載しています。

◆産業遺産見学会

今年度第一回目の見学会を、市と古河機械金属株との共催で、6月18日に開催しました。30名の参加者は、古河機械金属株足尾事業所社員の説

明を受けながら、古河掛水倶楽部や重役役宅、本山製錬所を熱心に見学しました。

◆シンポジウムの開催

10月26日(金)・27日(土)の2日間にわたり、シンポジウムを開催します。26日は産業遺産見学会を、27日は講演会を行う予定です。詳細については、広報にっこうと一緒に配布した案内チラシや専用ホームページをご覧ください。市民の皆さんのご来場をお待ちしています。

足尾銅山を世界遺産へ

世界遺産国内暫定一覧表への追加記載を目指して



宇都野火薬庫跡(国史跡)

3月号では、昨年10月に開催したシンポジウムと平成23年度の世界遺産登録推進事業の概要についてお知らせしました。

今回は、足尾銅山産業遺産の歴史的価値と6月に開催した産業遺産見学会の概要などについてお知らせします。

くわしくは 文化財課 世界遺産登録推進室 ☎(30)1861

足尾銅山産業遺産の歴史的価値

明治10(1877)年、足尾銅山を買収した古河市兵衛は、銅鉱石の採鉱から選鉱を経て銅精鉱の製錬に至る各工程と、輸送方法に最新技術を導入しました。明治23(1890)年には水力発電所を建設して、これらの工程の電化を進め、やがて電気精銅までの一貫した銅生産システムを確立しました。これにより足尾銅山は、東洋一の生産量を誇る銅山へと成長しました。

しかし、製錬の工程で発生する亜硫酸ガスと鉱山廃水による環境問題が徐々に深刻化し、明治23(1890)年に発生した渡良瀬川大洪水による下流域の農作物被害が契機と

なって、公害問題は顕在化しました。翌明治24(1891)年、衆議院議員の田中正造が帝国議会で追及したことで、公害問題は広く知られるところとなり、やがて大きな社会問題に発展しました。事態を重くみた政府は、明治29(1896)年、足尾銅山に日本初の「鉱毒予防工事命令」を発令しました。足尾銅山は工期半年という厳しい期限の中、会社はもとより町民の奉仕作業により、廃水処理のための浄水場、廃棄物流失防止のための堆積場、煙害対策のための脱硫塔の建設を完了させました。

これにより廃水対策は一定の成果をみみますが、煙害対策は不十分でした。その後も当時の最新技術を導入し、排煙中の有機物質除去に努めました。煙害対策に終止符が打たれた。